

## アグリフード EXPO 大阪 2014 商談会スキルアップセミナーが開催されました

2月19日(水)、アグリフード EXPO 大阪 2014 の出展者を対象に、「商談会スキルアップセミナー」を開催しました。講師には、佐藤琢二氏（株式会社キンレイ 外食事業カンパニー開発本部 商品部購買チーム チームマネージャー）を迎え、「外食企業が農業生産者に求めること」として、商談に望む際のポイント、商品の訴求方法などについて講演いただきました。聴講者からは、「バイヤーとの接し方など大変参考となった。」、「消費者の行動分析など、何を求めているのかが理解できた。」など、大変ご好評いただき無事終える事ができました。



セミナーの様子

## 専門部会の動き（2～3月分）

### 【東北農業復興プラン検討部会】

状況報告と今年の専門部会の振り返りを行いました。今年の春まきタマネギの試験栽培については、予算が付いたこともあり、より積極的な取組みとして毎月定例的に会合を持ちながら進めていくこととしました。南相馬復興に向けて、たまねぎ栽培の試験栽培を実施して、一定の収穫が確認出来た一方で、多くの課題も見つかりました。

今後、更なる分析を重ね、産地化や事業体のあり方等、復興プランの策定を検討する方針です。

### 【人材育成①】

当部会では、建設業から農業参入した企業からの経営改善相談について、部会で経営課題の洗い出し、改善の方向性の提案を行い、併せて安定した生産基盤の確立のため農業者の会員を現地に派遣し、当社の生産体系や管理方法などを実地検証した結果を報告しました。

相談先からは、「自社の経営課題の明確化とやるべきことの優先順位が分かった」、「技術面でも先駆的農業者と意見交換でき実効性が感じられる」など好評でした。

農業参入や新規就農を支援するスキームとしてこの取組みを今後更に展開していくこととしました。

### 【人材育成②】

2月3日開催のトップマネジメントセミナーの結果報告と、農林水産省経営局の公募内容（技術習得支援事業）の検討を行いました。

トップマネジメントセミナーについては、85名の参加を得て、参加者アンケート結果も概ね良好な結果となりました。今回は、他の会議やイベント等と連動しない単独開催となりましたが、今後も企画内容・集客方法を工夫すれば、単独での開催も可能という感触を得ることができました。

技術習得支援事業（農水省補助事業）の公募については、昨年度の資料と今年度の受講生アンケート結果を基に改善点を洗い出し検討を行いました。

専門部会の振り返りとしては、技術習得支援事業に関する検討など、従来行っていたセミナー企画以外の実践的な取り組みがあり、とても充実したものになったという意見がありました。

## 【事業化支援・販売支援③】

2月は、これまで検討を重ねてきた北海道産牛肉のブランド化3件についての検討結果のまとめとして、それぞれの案件について、①商品の訴求ポイント、②最終消費者のイメージ、③ターゲットとする販売先、④ターゲットとする販売先に販売するための具体的方策、の4項目について検討し意見の取りまとめを行いました。

3月は、新たに国産小麦ブランド化について検討を実施し、ボリューム、価格面で差別化が難しいので、ターゲット選定が必要であることなど意見交換を行いました。

最後に、今年度の部会の振り返りを行いました。良い点としては、検討案件が事務局からだけでなく会員からも発案がある等、多方向のコミュニケーションができたことが挙げられました。反省点としては、案件について概要情報を事前に共有できなかつた為、効率的な討議実施を行うことができなかつたことが挙げられ、次回以降の課題となりました。

今回は、国産にんにくのブランド化について検討予定です。

「アドバイザーに期待すること」	(有)徳海農耕 丸田代表取締役
農業経営アドバイザーとしての 取り組み事例発表	㈱三井住友銀行 深山氏
私的整理による事業再生	中小企業再生支援全国本部 藤原 敬三氏
貿易保険を活用した海外販路 拡大について	(独)日本貿易保険 伊藤 正晴 氏
業種別の最新動向	日本政策金融公庫 情報戦略グループ 畑脇氏
農業法人投資育成制度の改正 について	日本政策金融公庫 地域支援グループ 小柳氏
農業経営上級アドバイザー試験 について	日本政策金融公庫 総合支援グループ 森下氏

## 理事会・総会の日程が決まりました(再掲)

平成26年度第1回理事会・総会の開催日程が決まりました。会員の皆さまは、あらかじめスケジュールの確保をお願いします。

なお、議案等の詳細は5月中旬に連絡します。

開催日：平成26年6月2日(月)

場 所：日比谷図書文化館(東京都千代田)

## 農業経営アドバイザーミーティングを開催

J-PAOは、日本政策金融公庫から農業経営アドバイザー試験制度の運営事業を受託しています。

この事業の一環として、3/3(月)～3/4(火)に日本教育会館(東京都千代田区)にて農業経営アドバイザー試験合格者を対象とした研修「平成25年度第2回農業経営アドバイザーミーティング」を開催、約230名の農業経営アドバイザーが参加しました。

3/3には表のとおり情報提供を行い、2日目には、今年度第1回開催(10/17)時に好評だった参加者同士の意見交換(ワールドカフェ方式)を行いました。テーマは「これからの農業経営者への支援活動に最も重要なことは」、「農業経営アドバイザーとして、どのようなことを武器に支援をしていきますか」の2つで、順に話し合いを行いました。

参加者からは、「それぞれの考えや思いを多く聞くことができ、アイデアも発見できる」「アドバイザーの多様性を感じる良い機会でした」などの声がありました。

## 主な活動(2/15～3/31)

- 2/15 農業研修会(和歌山県有田市)(高田)
- 2/18 とちぎ農業ビジネススクール(農業経営支援センター)
- 2/19 湯沢雄勝広域担い手連絡協議会(高木理事長)
- 2/22 大分県農業ビジネススクール  
(都築運営会員、藤野運営会員、農業経営支援センター、高木理事長)
- 2/24 りんごニーズ対応型ビジネス拡大事業に向けた課情報交換会(高田)
- 2/25 新潟県農業指導士会講演会(食料マネジメントサポート福田氏)
- 2/28 阿蘇エコファーマーズセンター講演会(後藤)
- 3/3～4 第2回農業経営アドバイザーミーティング
- 3/4 とちぎ農業ビジネススクール  
(農業経営支援センター、金子運営会員、アサヒグループホールディングス大西氏)
- 3/3,5 地方銀行協会研修会(高木理事長、後藤)
- 3/11 兵庫県主催セミナー(後藤)
- 3/12 第79回企画運営委員会
- 3/24 青森県営農大学校(高田)
- 3/24 福島県主催セミナー(松田運営会員)

## 往復書簡

今回は、梶谷氏（山梨県 ㈱ファーマーズ・リンク）と当機構理事長の高木勇樹との往復書簡 2 回目です。

拝啓 高木 勇樹様

お返事ありがとうございます。暦の上では立春が過ぎましたが、当地ではこの週末、五十センチを超える積雪に見舞われました。十数年ぶりという大雪に、除雪機もない我々は、為す術なくただただ自然の脅威を受け止めるしかありませんでした。

農業は、自然の恩恵を受けて人間の糧を得る人類最古の産業であると共に、自然の脅威を直に受ける産業であります。昨今は、その自然リスクを回避すべく、植物工場が話題になっておりますが、弊職は、自然とともに生き、五感をフル活用させながら、作物の生育を通じて人としての感性を磨き農業に魅力を感じております。

さて、「農業界」の「珍種」とのお言葉をいただき、弊職なりに「農業界」と「珍種」について考えてみました。まず、「農業界」について。弊職は、それを語るにはあまりに知識も経験もなく、素人ではありますが、素人なりに感じることを申し上げるとするならば、「農業界」には道徳や秩序が欠けているのではないかと感じます。それは、自然や国土と密接に関わる産業であること、副業としても為し得る産業であること等から、政治に利用され、高木様が誤ったとおっしゃっている、これまでの行政による支援の結果なのかもしれません。

弊職は、微力ながら、「珍種」として「農業界」の現状打破に貢献できればと考えておりますが、どの業界でも「珍種」に対する風当たりは強いものです。こと平均年齢が六十五歳以上かつ個人・小規模法人が大半という「農業界」においては、若い・女性というだけで、まさに「珍種」

です。弊職は、これまでも自らの想いを成し遂げる過程において、幾度となく非難や排除の対象となり、その度に悩み苦しみながらそれを乗り越えて来ましたが、そして、高木様のように、年齢・性別・業界関係なく弊職を応援してください「珍種」の皆さまが、弊職を支え、人として成長すべく導いてくださっていることに、心から感謝しております。

弊職は、自らの人間力を高めるステージとして「農業界」を選びましたが、高木様が生涯懸けて「農業界」に関わっていらつしやる想いについて次回聞かせていただければ幸いです。

敬具

平成二十六年二月吉日

梶谷 よしみ （かじたに よしみ）

一九七九年 京都府生まれ  
二〇〇三年 立命館大学法学部卒業  
同年四月 豊田通商㈱ 入社  
二〇一〇年四月 実家に戻り、㈱京都ファーム支援  
二〇一二年 山梨県 ㈱イズミ農園に就職・就農  
同年十一月 山梨県にて㈱JBAO 山梨設立・代表に就任  
農場および集出荷施設管理  
二〇一四年一月 ㈱ファーマーズ・リンクに社名変更



拝復 梶谷 よしみ様

東京は四十五年振りの積雪を記録した翌週末も大雪となり、残雪の上に積もり外出に難儀しました。

でも農業地帯は西は九州、東は関東各県まで、正に予想外の積雪に大きな被害が出ました。心から御見舞い申し上げますとともに復旧の早からんことをお祈りする次第です。

私は五十代に入り、何故か自らの来し方行く末を考えるようになりました。その結果生かされている命の使い方として、六十五歳を区切りに、ボランティアに徹し、この世のすべての人間に公平、平等に与えられている「時間」は、ライフワークのために使い切るとの選択をし、実行に移したのです。

ライフワークのひとつが農業・農村・食料問題に関わり続けるということですが、

その理由と心構えですが、(一)この問題に四十年余仕事として関わり、その間に得た知識・経験の蓄積を客観的に後世に伝え続けることは、この問題の関係者に対する私の義務である、(二)私のこれまでの経験によれば、きちんとしたものさしによる客観的事実の発信は必ず誰かが受けとめ、それが大きなうねりにつながる。だから発信し続けることが大事である。(三)このようなことを生涯現役の気概で、常に好奇心をもって現場に学びつつ、毀誉褒貶(きよほうへん)を楽しみながら捨て石という思いで取り組む。

これがお尋ねの「私が農業界に関わっている、そしてこれ

からも関わり続ける想い」です。

詮じつめて申し上げれば、棺桶に入るとき、生かされている命を、自分のものさしで使い切ったと、自ら心から満足出来るように自分の時間を使いたいということです。

人世観のようなことになりましたが、結局どんな職業を選択するにしろ、その人間の人世観(生きるものさし)が決定的に重要であるというのが、これまで生かされてきた私の到達点です。

次回貴女のコメントを頂ければと思います。

敬具

平成二十六年三月吉日

高木 勇樹(たかぎ ゆうき)

一九四三年 群馬県生まれ  
一九六六年 東京大学法学部卒後農林省入省。食品流通局砂糖類課長、大臣官房企画室長などを経て、食糧庁管理部長、畜産局長、大臣官房長、食糧庁長官など歴任。

一九九八年 農林水産事務次官、二〇〇一年退官

二〇〇二年 農林中金総合研究所理事

二〇〇三年 農林漁業金融公庫総裁、二〇〇八年同公庫退任

二〇〇七年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長

現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構理事などの立場から、わが国農業・農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力。

